

（ 黒滝の豊かな自然と文化を活かし、メンバーが自主的に活動する ） 「黒滝村村づくりプロジェクトチーム」

黒滝村は、奈良県のほぼ中央部に位置し、奈良県の「へそ」と呼ばれている。この地は古くから大峯修験道によって開かれ、14世紀中頃には後醍醐天皇が吉野の地に置かれた南朝の奥座敷となるなど、数多くの文化遺産が遺されている。

江戸時代に入ると幕府直轄地となり、林業が手厚く保護されたことから吉野材の基礎が出来上がり、適量の降雨、寒暖差の少ない気候に恵まれ、古くから良質の杉や檜材の生産が行われてきた。

近年は基幹産業の林業が構造的不況にみまわれ、過疎化と高齢化が進んでいる。

「黒滝村村づくりプロジェクトチーム」は、昭和63年に村の活性化を図ろうと行政の呼びかけに応じて発足し、人との出会い、交流をテーマに数多くのイベントを自主的に開催・活動している。会員は、地元の人を中心となり、現在16名となっている。

主な取組み

■「こもれび美術展」：館内にやわらかい陽光がふりそそぐ「こもれびホール」を会場として隔年毎（西暦偶数年）の11月に開催される。この美術展は、村内在住の作家の作品を展示したことから始まったが、村外からの出展も増えてきており、他地域との交流を深めている。

昨年の展示品は、彫刻、陶芸、水墨画、書、油絵、写真、草木染め、竹とんぼなど多彩となっている。

また、昼にはチェーンソーで木材に彫刻するチェーンソーアートの実演・販売、夜は、ミニコンサート「フルートの夕べ」が行なわれた。

■「世界遺産 大峯奥駈道プチ縦歩」：昨年10月14日～15日開催、約20名が参加した。村内にある大峯奥駈道を歩き、「黒滝・森物語村」で宿泊し、翌日はこんにゃく作り、草木染めを体験しグリーンツーリズムを楽しんだ。今年は、日帰りでの10月27日（土）に同じような催しが予定されている。

■「和太鼓フェスタ黒滝」：同村では和太鼓を未来に伝えていこうと、「和太鼓 紅」を立ち上げ、毎年9月に「文化とスポーツの森」のやまなみステージで開催している。今年は3回目となり、交流のある「和太鼓 秋篠」（奈良工業高校）、「御所太鼓 耀」（御所市）、「初瀬太鼓 鱗角舎」（桜井市）、「やまと獅子太鼓」（大和郡山市）が参加した。

当会のリーダー田中浩則氏は、「村づくりについでには、一人一人の住民が本気でやる気を出し、創造的なイベントをみんなで考え、観光客を親切にもてなすことが大切。また、天川村へ向かう観光客に、いかに当村へ立ち寄りてもらうか方策を練っている」と話していた。（上田）



世界遺産 大峯奥駈道プチ縦歩



和太鼓フェスタ黒滝

セミナーだより

●株式上場（IPO）セミナー（主催：株式会社南都銀行・野村證券株式会社）

新規上場市場の創設で株式上場のチャンスが開かれており、多くの企業が上場を目指している。セミナーでは、野村證券経営役員岩佐昌治氏による講演「新会社法下における『企業価値経営』へのガイダンス」、大阪証券取引所による新市場「ヘラ

クレス」などの説明、また、今年3月にジャスダック市場上場を果たした寺崎電気産業株式会社藤田正一社長による実体験談など、株式上場に向けた企業経営・実態面でのポイントの解説やアドバイスが、様々な角度から行われた。

（2007.9.4 南都銀行西大寺支店セミナールームにて開催）

本コーナーでは、当センターが後援した講演会・セミナー等をご案内しています。